

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年生	4単位	必修
担当教員			
宮元 預羽 ・ 大橋 和博			

講義概要	<p>①利用者が安心して生きがいのある生活が営める生活環境について考える。 ②領域「社会の理解」と「こころとからだのしくみ」で学んだ知識と介護の専門性を統合する。 ③人間・社会・生活、に焦点をあてて介護の専門性を理解し、連携方法を考える。 ④課題解決のための提案をすることができる。 ⑤利用者の生活障害に対する介護福祉士の社会的役割を自ら考える。</p>
授業計画	<p>1 自立に向けた介護 自己決定の介護（ワーク）</p> <p>2 介護における安全の確保とリスクマネジメント リスクマネジメントの介護（ワーク） テキストⅡ p 164～</p> <p>3 介護問題の背景Ⅰ 高齢化率急上昇における介護問題（介護危機） テキストⅠ p18～、 p 79～、</p> <p>4 介護問題の背景Ⅱ 障害児・者虐待問題（1） テキストⅠ p 18～、 p 79～、テキストⅡ p 30～</p> <p>5 さまざまな生活支援とその意義Ⅰ 相談援助・精神的支援・家族支援：回想法的レクリエーション</p> <p>6 さまざまな生活支援とその意義Ⅱ 相談援助・精神的支援・家族支援：回想法的レクリエーション</p> <p>7 介護福祉士の倫理Ⅰ 倫理綱領など</p> <p>8 介護の働きと基本的視点Ⅰ 尊厳を支える介護：実習の体験から（1） テキストⅠ p 173</p> <p>9 介護の働きと基本的視点Ⅱ 尊厳を支える介護：実習の体験から（2） テキストⅠ p 173</p> <p>10 介護福祉士の倫理Ⅱ ワーク：倫理的葛藤</p> <p>11 介護の働きと基本視点 ワーク：尊厳を支える介護</p> <p>12 介護福祉士の倫理Ⅲ ワーク：「価値」について</p> <p>13 介護問題の背景Ⅲ 障害児・者虐待問題（2） テキストⅠ p 18～、 p 79～、テキストⅡ p 30～</p> <p>14 介護問題の背景Ⅳ 障害児・者虐待問題（3） テキストⅠ p 18～、 p 79～、テキストⅡ p 30～</p> <p>15 介護問題の背景Ⅴ 児童虐待問題Ⅰ</p> <p>16 介護問題の背景Ⅵ 児童虐待問題Ⅱ</p> <p>17 介護問題の背景Ⅶ 高齢者虐待問題Ⅰ</p> <p>18 介護問題の背景Ⅷ 高齢者虐待問題Ⅱ</p> <p>19 介護福祉士の倫理Ⅳ 倫理綱領など</p> <p>20 介護問題の背景Ⅸ 高齢者虐待問題Ⅲ</p> <p>21 虐待防止法について 国家試験問題と虐待防止法</p> <p>22 さまざまな生活支援とその意義Ⅲ 相談援助・精神的支援・家族支援</p>

	23	さまざまな生活支援とその意義Ⅳ 相談援助・精神的支援・家族支援
	24	さまざまな生活支援とその意義Ⅴ 相談援助・精神的支援・家族支援
	25	介護に携わる人の健康管理Ⅰ 介護ストレスⅠ テキストⅡ p 191～
	26	介護に携わる人の健康管理Ⅱ 介護ストレスⅡ
	27	介護に携わる人の健康管理Ⅲ ・
	28	専門職業人としての介護福祉士Ⅰ ・
	29	専門職業人としての介護福祉士Ⅱ ・
	30	専門職業人としての介護福祉士Ⅲ ・
授業形態	講義・演習	
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	①自立に向けた介護の具体的な対処方法を検討することができる ②介護を必要としている人への理解を深める ③介護福祉援助展開において、介護福祉の基本原則に則った対人援助の方法と技術を習得する ④介護・福祉の今後の課題を検討することができる ⑤介護職に求められる倫理観について、基本的な考え方を習得する	
教科書・参考書	テキスト：配布資料。 参考：介護福祉士養成講座編集委員会「新 介護福祉士養成講座3「介護の基本Ⅰ」「新 介護福祉士養成講座4「介護の基本Ⅱ」」（中央法規出版）。 参考：『アクティブラーニングで学ぶ介護過程ワークブック』みらい出版。	
履修条件		
履修上の注意		
オフィスアワー	授業終了後、お昼休み時間	
備考・メッセージ	1. 授業は1年次に学習した内容の確認と補足、応用に向けての演習授業が中心となります。 2. 配布資料中心の授業です。	